

# 共生・協働の 地域社会づくり

こころね  
NPO法人 心音  
TEL 0997 (92) 3800

## 世代間交流を通して誰もが安心して 子育てでできる地域づくりを目指して

和泊町のNPO法人心音は、沖永良部の自然と島民の人柄に魅せられ長崎からインターンした安徳理事長が、地元の有志とともに「世代間交流を通して誰もが安心して子育てできる地域づくりを行いたい」と平成18年5月に設立しました。その背景には、子育ての悩みを抱える若い世代がいる一方で、元気でさまざまな知恵や技術を持っていても、それを生かす機会がない高齢者や地域住民との交流が少なく孤立している高齢者が多いという島の現状がありました。法人名の「心音」には、「島民の心の声を聞いて、つながりをつくっていくことができる団体にしたい」という思いが込められています。

設立当初は、「うやは(高齢者)たくみのわざ事業」と題し、高齢者が子育て経験の浅い母親の悩み相談に応じたり、子どもたちにわたしの作り方を教える会を開催しました。参加した高齢者からは自分の知恵を伝えられる喜びを感じられたことについて、また、子育て中の母親からは子育てのアドバイスを受けられる場を提供してもらえたことへの感謝の声



トランポ・ロビックス教室の様子

が寄せられました。平成24年度はトランポリンを使い親子のふれあいを図る「トランポ・ロビックス教室」を開催したところ関心が集まり、健康づくりの一環として町内の高齢者も参加するようになるなど、心音の認知度を上げるきっかけとなりました。この活動は、今では町内の幼稚園の教育プログラムにも取り入れられるなど、広く町民の健康づくりに役立てられています。

平成25年度は、県の地域協働の仕組みづくり促進事業を活用し、「循環型社会を目指すエコ『しまあかり』プロジェクト事業」を実施しました。このプロジェクトは、島の貴重な財産であるフーヤ屋敷跡の価値を再認識することを目的としたものです。フーヤ屋敷を囲む石垣の修復や周辺を清掃するなどの準備を経てイベント実施に至りました。イベント当日は、子どもから高齢者まで約200人がフーヤ屋敷跡に集まり、廃品を利用した1100本のキヤンドルにあかりを灯しました。このイベント後には大きな反響があり、「このプロジェクトで子どもと高齢



しまあかりプロジェクト



### 代表者からひとこと

理事長の安徳 けんじ 建二さん

NPO活動を通して、仲間と出会い、自分の手で社会に貢献できる活動を続け、新しい未来を創造していきたいと思っています。

者とを結び、町民の景観保存に對する意識を高めたことが、沖永良部のNPO法人やボランティア団体の活動に火を付けた」と安徳理事長は語ります。その後フーヤ屋敷跡は、維持・保存のために整備され、昔ながらの遊びを親子で楽しめる「遊び祭 ASHIBISA」を開催するなど、活用が図られています。

心音は、島民に頼りにされる身近なNPOとして、行政や他のNPO法人などと協働して、住民の心に届くさまざまな活動に取り組んでいます。

(※1)フーヤ屋敷とは、石垣やフクギ、ガジュマルで囲まれた沖永良部の伝統的な屋敷のこと。  
(※2)「遊び祭 ASHIBISA」の「あしび」とは、方言で「遊ぶ」の意味。



石垣修復作業の様子

共生・協働の地域社会づくりや  
NPO法人に関するお問い合わせ先

◎共生・協働推進課(県庁9階) TEL 099(286)2241  
◎共生・協働センター(かごしま県民交流センター内) TEL 099(221)6613  
関連情報は、県ホームページの「共生・協働(NPO・ボランティア)」にも掲載しています。